

森研第29号
平成29年6月6日

関係所属長 様
関係機関・団体の長 様
関係各位

岐阜県森林研究所長

平成29年度岐阜県森林研究所「研究・成果発表会」の開催について

日頃は、当所の試験研究業務にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。
当所では、下記のとおり研究・成果発表会を開催します。つきましては、多くの方々にご参加いただきたくご案内申し上げます。また、関係者、関係機関等にご案内いただきたく、併せてお願い申し上げます。
なお、参加を希望される場合は、下記の4により申し込みしてください。

記

1. 開催日時および場所

日時：平成29年7月13日（木）13：15～16：10（12：45より受付）

場所：わかくさ・プラザ 多目的ホール（関市若草通2丁目1番地）

※会場を昨年度とは違う施設に変更していますのでご注意願います。

※車でお越しの方は、できる限り乗り合わせをお願いします。

2. プログラム（講演・発表の内容は別紙のとおり）

13:15～13:20 開会・あいさつ

13:20～14:20 講演 イノベーションの視点から日本林業の方向性を探る

京都大学フィールド科学教育研究センター 長谷川 尚史 氏

14:20～14:30 休憩

14:30～14:50 発表① 土構造の森林路網で発生した損壊の地形的特徴 森林資源部 白田 寿生

14:50～15:10 発表② 間伐を行ったヒノキ人工林における高木性樹種の更新状況

森林環境部 片桐 奈々

15:10～15:30 発表③ シカ食害対策資材の耐雪性について

森林環境部 岡本 卓也

15:30～16:10 ポスター発表（研究成果の紹介）

16:10 閉会

3. 定員：150人程度（参加無料）

4. 申し込み方法：

参加申込書に記入の上、FAX、電子メール、郵送のいずれかにより7月6日（木）までに申し込みしてください。

5. 申し込み・問い合わせ先：

岐阜県森林研究所（〒501-3714 美濃市曾代 1128-1） 担当：土肥、久田

電話：0575-33-2585 FAX：0575-33-2584

電子メール：c25108@pref.gifu.lg.jp

【講演内容】

題名 イノベーションの視点から日本林業の方向性を探る

京都大学フィールド科学教育研究センター 長谷川 尚史 氏

日本の森林資源はこれまでになく充実してきていますが、木材需給はバランスを欠いた状況となったまま、皆伐、再生林の動きが大きくなってきています。ここでは「イノベーション」をキーワードに、サプライチェーンや生産管理、人材育成、組織戦略、地域社会など幅広い視点で、日本林業の方向性を探ってみます。

【発表内容】

発表① 土構造の森林路網で発生した損壊の地形的特徴

森林資源部 臼田 寿生

木材生産の低コスト化を目的とした土構造主体の森林路網を作設する際には、作設後の安全確保や維持管理費抑制のために、損壊が発生しやすい場所をできるだけ回避することが重要となります。そこで、既存の森林路網の損壊箇所を調査した結果、損壊のほとんどは30度を超える急傾斜地や地すべり地形などの崩壊危険地で発生していることが明らかになりました。

発表② 間伐を行ったヒノキ人工林における高木性樹種の更新状況

森林環境部 片桐 奈々

針葉樹人工林を針広混交林へ転換するために、人工林の間伐後、天然更新ができれば手間がかかりません。一方で、壮齢人工林、特にヒノキ人工林は過密化により下層植生が乏しく、土壌流出が多いといわれています。このような林床で間伐をし、高木性樹種は侵入、定着できるのでしょうか。ヒノキ人工林の間伐後、高木性樹種を追跡調査した例を紹介します。

発表③ シカ食害対策資材の耐雪性について

森林環境部 岡本 卓也

県内ではシカにより植栽木が採食される被害が発生しています。対策の一つに植栽木1本1本を覆って保護するツリーシェルターがありますが、積雪により倒れたり破損したりすることが報告されています。積雪深150cm程度の多雪地に設置したツリーシェルターの融雪後の状況を紹介し、積雪地域でも用いることができるツリーシェルターについて考えてみます。

岐阜県森林研究所研究・成果発表会
(平成 29 年 7 月 13 日 (木))
参加申込書

機関名 _____

担当者名 _____

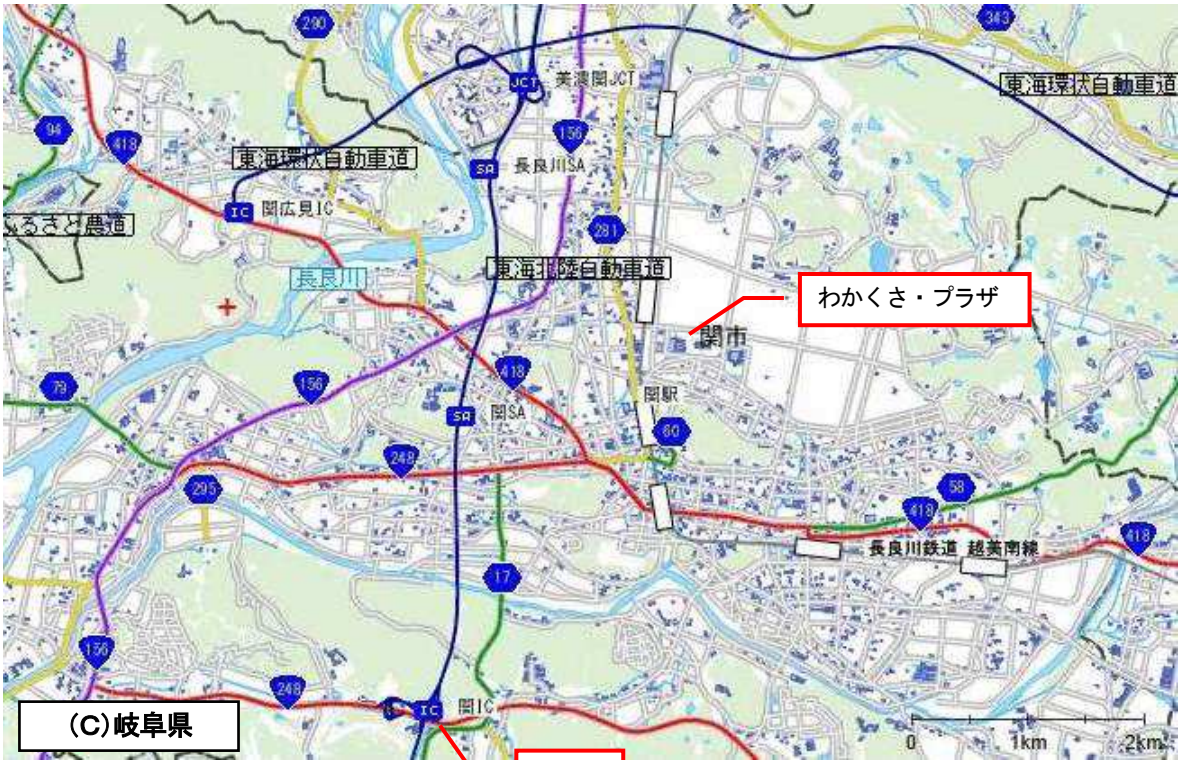
電話番号 _____

所属 (部課名等)	氏名

できる限り機関ごとにとりまとめのうえ、FAX、メール、郵送のいずれかでお申し込みください。
必要事項が記入してあれば、この申込書によらなくても結構です。

FAX : 0575-33-2584

会場位置図 (わかくさ・プラザ)



周辺図



拡大図